

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第5回運営委員会 開催日：11月7日。出席者：田中委員長，ほか9名。

1. 各分科会より活動報告がなされた。
2. 第102回講演大会についての報告がなされた。
3. 依論文賞選考委員会の追加メンバーが推薦され，依頼することになった。

第9回和文会誌分科会 開催日：11月7日。出席者：田中主査，ほか23名。

1. 21件の論文審査報告がなされ，掲載決定13件，修正依頼3件，照会后掲載可1件，その他4件であった。

2. 「鉄と鋼」第67年第3号（3月号）に論文13件，技術資料1件，解説5件掲載決定した。

第9回欧文会誌分科会 開催日：11月10日。出席者：中村主査，ほか9名。

1. 11件の論文について審査報告がなされ，掲載可1件，照会后掲載可8件，修正依頼2件であった。

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，2件の研究論文と3件の Report を勧誘することとなった。

第5回講演大会分科会 開催日：10月30日。出席者：郡司主査，ほか19名。

1. 第100回講演大会の報告および反省をもとに今後の開催方法について討論が行われた。

2. 第103回講演大会の討論会テーマを決定した。

共同研究会

鋼管部会

第35回部会 開催日：11月6日～7日。出席者：田中部会長，ほか211名。

開催地：第1日 新日鉄・名古屋
第2日 川鉄・知多

1. 共通議題

「鋼管製造技術の現状と展望」についてパネルディスカッションが，「設備管理・保全について」についてアンケートのまとめ発表が行われた。

2. 継目無鋼管分科会報告

分科会の活動状況報告と，「継目無鋼管製造における省エネルギーについて」の報告があった。

3. 自由議題

次の3件の発表があった。

- (1) 「静的および動的内歪みを受ける鋼管の破壊強度におよぼす表面欠陥の影響」

- (2) 「中径シームレスのコンピューターコントロール」

- (3) 「ストレートナーの解析とコラプスに関する一考察」

熱経済技術部会

第67回部会 開催日：11月13日～14日。出席者：片田部会長，ほか118名。

1. 開催地：大阪地区（中山，合同，大阪）

2. 統一議題

「加熱炉の炉体断熱の実態と問題点」についてアンケートのまとめ発表があった。

3. エネルギーバランスまとめ報告

昭和54年度のエネルギーバランスについて一貫・非一貫工場別にまとめの報告が行われた。

4. 省エネルギー研究小委員会最終報告

「一貫製鉄所における省エネルギー限界の考察とエネルギー構造の将来像」と題し発表があった。

5. 自由討論

計11件の発表が各社の事前質問に対する回答の形で発表があった。

6. 自由議題

計17件の各社最近の成果発表があった。

7. 工場見学は中山・船町の転炉工場を中心に行われた。

標準化委員会

整合性調査特別委員会

第2回厚板調査分科会 開催日：10月15日。出席者：脇本主査，ほか9名。

1. 対比表（C表）の検討。各委員から提出されたC表について内容を検討し，JISの種類と，対比すべきISOの種類について整理した。

2. 調査結果（B表）のモデル説明。

第3回厚板調査分科会 開催日：11月11日。出席者：脇本主査，ほか9名。

1. 整合性対比表（C表）の整理
2. 整合性調査結果（B表）の検討
3. 今後の進め方

第2回薄板調査分科会 開催日：10月31日。出席者：三佐尾主査，ほか10名。

1. 整合性調査結果のA表，B表及び判定基準が総括調査分科会において改正されたので，改正内容について林幹事より説明があり，B表作成に当たっては，判断基準メモを添付することになっているとの説明があった。

2. B表の検討。5社作成のB表の比較表をもとに判断基準について検討し，亜鉛鉄板，冷延鋼板のJIS-ISO整合性判断基準メモの結論を得た。

第1回条鋼調査分科会 開催日：11月5日。出席者：小倉主査，ほか9名。

1. JISとISO整合性調査について，規格の分担と今後の進め方を討議した。

ISO 鉄 鋼 部 会

第 22 回 SC8 分科会 開催日: 11月5日. 出席者:

小倉主査, ほか 9 名.

1. ISO 657/V の改正案
2. H形鋼の表示記号
3. 5年の見直し

第 24 回 SC9 分科会 開催日: 10月1日. 出席者:

有賀主査, ほか 8 名.

1. 10月28日~30日, オランダ (ハーグ) にて開催予定の, 第 15 回国際会議に当たって, 主要議題の事前審議を行つた. すなわち,

ISO/TC17/SC9N290

ISO/TC17/SC9N291

ISO/TC17/SC9N292

について日本案をまとめた.

第 49 回 SC12 分科会 開催日: 10月24日. 出席者:

三佐尾主査, ほか 8 名.

1. 主査から, ASTM の Mr. Cobb から 1982 年 10月18日の週に TC17/SC12 を東京で開催してもよい旨の連絡があつたとの報告があつた.

2. 薄板のレターシンボルについて.

第 12 回 EC 分科会 開催日: 10月14日. 出席者: 小倉主査, ほか 8 名.

1. EC 国際会議対策. Item No. 8~15 に関して検討し, 日本代表として発言する際の要点について討論した.

第 13 回 EC 分科会 開催日: 10月24日. 出席者: 小倉主査, ほか 8 名.

1. TC17/SC2, SC8 及び TC17/AG 会議の日本開催について. インドより日本での開催が可能かどうか打診してきたので, 期間や経費等について検討した. じかし, 日本でもインドの希望どおりの条件では難しいので辞退を申し出たスウェーデンにもう一度辞退理由を確か

めることにした.

2. ISO と JIS の整合性

昨年調査した結果の報告書の抜すいを一読した.

ISO TC17 事務局運営委員会

4th Meeting of ISO/TC17/EC-

Steel/Executive Committee 開催報告

開催日: 1980 年 10 月 27, 28 日.

開催地: Stockholm, Sweden

議長: 青木 朗 (新日本製鉄(株))

幹事: 田中芳徳 (ISO/SC17 事務局所長)

出席者: Australia, France, Germany, Italy, 日本, Sweden, UK, USA, ISO 中央事務局より 14 名.

1. EC 会議の性格は, ISO/TC17 運営の基本問題を論議し, 幹事国に対する諮問機関の役割も兼ねた Steeling Committee ともいふべきもので, 日本幹事国主催の最初の会議であり, 各国ともその成行きを見守っていたが, 無事, 成功裡に終了した.

2. 懸案事項に関する決議は次のとおり.

(1) TC17 委員会組織の再編成について

(a) 全面的再編成は行わず, 各分科会間の連携を強化していく.

(b) 現組織は常に見直していく. EC メンバはこの問題についてコメントを提出すること.

(2) 鋼管規格作成に関する TC5-TC17 間の調整

Recommendation 1 に関する解釈上の問題があつたため, 「鋼管規格は TC5 と TC17 のどちらが作成するのがよいか」という質問状を両 TC の P メンバ国へ送付するよう TC17/EC は ISO 中央事務局へ要請する. その際, 各国とも 1 票の投票権とする.